

万太郎山スキー

10. 3. 27～28

3月27日(晴れ後雪)

メンバー: 菊地

ガラガラのロープウェイで天神平に降り立つ。天気も良いせいか既につぼ足・スキーやスノボードを持った人等多くの先行者が天神尾根を行く。行列に混じりのんびりペースで登って行く。肩の小屋から谷川岳を往復する人は多いが万太郎方面に向う人は居ない。肩の小屋からは暫く下りが続くが凍ったブッシュと無数のエビのしっぽがはびこりスキーで行くのは快適で無さそうなのでつぼ足で稜線を行く。途中、万太郎谷源頭を覗くと非常に雪が少ない。オジカ沢の頭までは緩やかな稜線歩きが続く。通常日帰り可能なルートだが、今回は雪洞に泊まるのも目的の一つで、余り先に行くと雪洞を掘る場所が無さそうなので早々に行動を切り上げる。掘る前に1本滑ろうとも思ったがシールで登り返すには傾斜が急で断念する。雪洞が完成する頃にはガスが立ち上りたちまち雪が降り出したのでのんびり風景を眺める事も出来ず雪洞に退散。

3月28日(雪) 朝起きた時は視界が有ったが、出発するとたちまちホワイトアウト状態になって風も強い。張り



出した雪庇に注意しながらつぼ足で進む。オジカ沢の頭は若干痩せ尾根でピッケルを使いちょっとした雪稜歩き気分を味わえた。カマボコ型の避難小屋影で風を避けスキーを履くがこちらも雪が少なく何処でもと言う訳には行かず、ブッシュやアイスバーンを縫いながら赤谷川源頭に滑り込む。視界が悪く平行感覚がおかしいが、つかの間パック気味チョイ重パウダーを味わう。しかし谷底は風で飛ばされてしまうのか殆ど雪が無い状態で、延々トラバースが続く。谷が狭まった所からは雪が残っていたが、ダムのような壁になっている。その先は平坦でスキーも滑らず歩きが多くなり視界が悪いので気が付くと登っていたりしながら万太郎山登り返し地点に到着。ここは谷が90度曲がり判りやすい。雪が少ないせいかここまでデブリ跡は一つも無かった。腹ごしらえしてシールで標高差500mの登りにかかる。視界は3～

40m程、コンパスで方向を確かめながら高みを目指すが山頂が近くなると、時々ガスが切れ薄日が差す様になった。しかし上がるにつれ凍った笹が出てくる。笹の上はシールの効きが悪く段差も多いのでなるべく避けながら行くが延々と続いている。最後の急傾斜を何とかシールで登ると山頂。風は非常に強く雪が横に飛んでいる。

時々ガスが薄くなり視界が開けるが、こちらも非常に雪が少ない。毛渡沢源頭は岳樺と氷をまとった笹のブッシュだらけ、スキーで行くには厄介な出だし。少し降りるとブッシュから開放され快適な滑走を楽しめると思ったが、新雪2~3センチの下は固いクラスト面がありスキーはガリガリ言い、吹き溜まった場所ではワックスが効いてないせいか滑らない。谷は雪が少ないので谷の北側尾根上に行く、視界が開けた時に辺りを見渡すとかなりの大斜面だった。天気の良い日に滑ったらさぞ気持ち良いだろう♪

平坦な台地からはまばらな樹林帯が続きロケーションは最高だが、今日はかなりのモナカ雪で日頃の運動不足のせいか足が疲れ息も上がり気味。最後に急傾斜を抜けると毛渡沢に合流。群大ヒュッテまでは渡渉1回、スノーブリッジ渡り2回で行けた。吊り橋は

スキーを担ぐのがめんどろなもので少し上流部を渡渉した。林道も以前はもう少し滑った気がしたが殆ど歩き漕ぎに終始した。今回のルートは滑りや歩行要素がふんだんにあり、ロケーションの変化も多かった。また距離も長いが、日帰り軽量装備でスピーディに抜けるのが良さそうだ。



コースタイム:

27日 天神平8:45~肩の小屋10:45・11:05~幕営地11:30

28日 幕営地7:45~オジカ沢の頭8:40・9:10~赤谷川1450m付近10:00・10:30~万太郎山12:20・12:50~14:40~群大ヒュッテ15:55・16:25土樽駅17:45

地形図:土樽、三国峠、水上